

2019年3月期 決算説明会

2019/5/17

ShinDengen /
New power. Your power.

第14次中期経営計画の振り返り

2019/5/17

第14次中期は長期目線を追加

2022年までの中長期（6年）の方針

- 自社製半導体の活用
- 成長市場にアプローチ

第14次中期経営計画経営方針

技術優位への挑戦、スピード、海外への販売拡大

第14次中期経営計画の振り返り

成果

海外事業強化

アライアンスの推進

課題

収益力向上

スピード

◇重点市場

モビリティ市場

産業機器市場

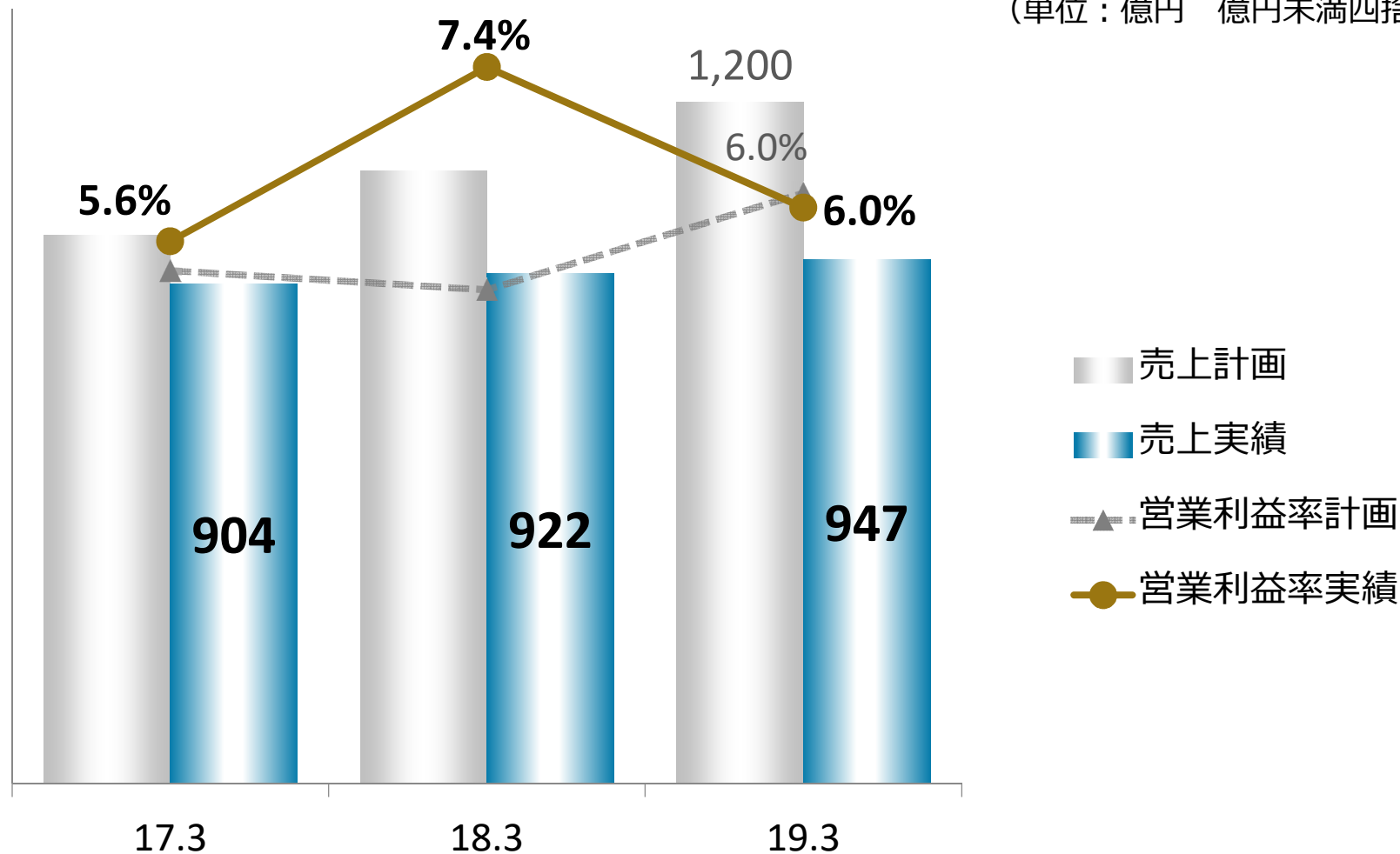
エネルギー市場

ヘルスケア市場

第14次中期経営計画の振り返り

計画と実績（売上高・営業利益）

（単位：億円 億円未満四捨五入）



売上高の乖離要因

アセアン二輪市場

- ・ 需要予測の見誤り

新エネルギー市場

- ・ 新しい事業の育成が進まず
- ・ 太陽光発電、市場縮小

パワーモジュール製品

- ・ 一定の成長実現、ただし計画には届かず

- **主力製品の競争環境激化**

- メガサプライヤー、新興勢力との競合増

- **長期的に電子部品、電装品の需要は増加**

- 車・バイクの電子化、電動化
- 5 G、IoTなど

- **成長市場はモビリティ**

- モビリティ市場にはより多角的に製品を提供
(パワー半導体、パワーモジュール、電装品、充電器など)



第15次中期経営計画

2019/5/17

持続的成長に向けた製品戦略の加速

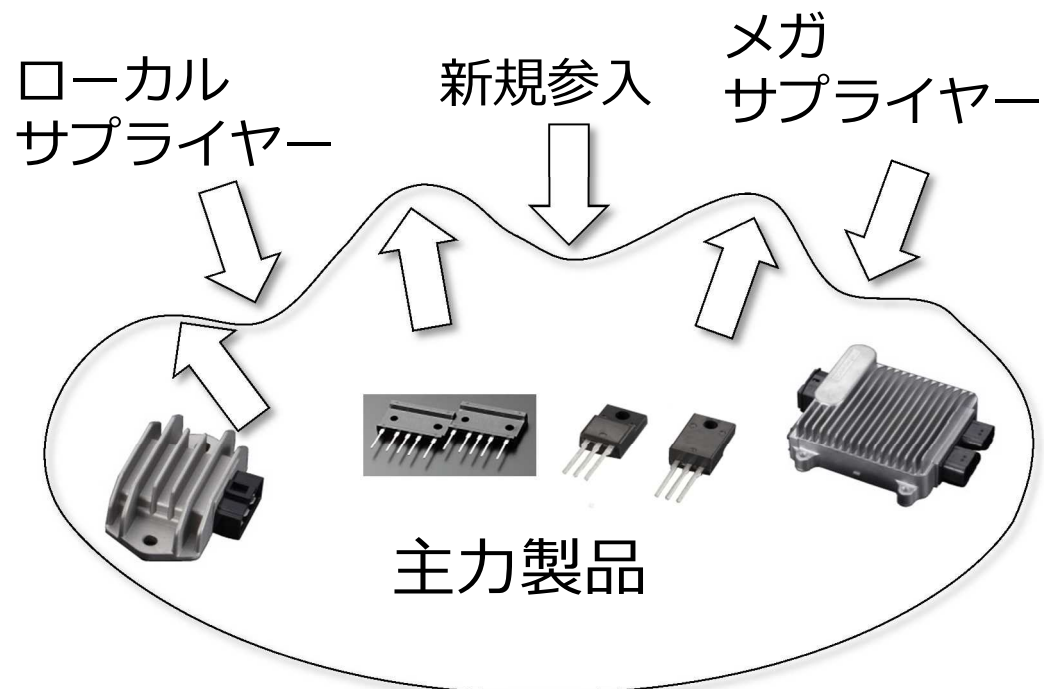
主力製品競争力強化

伸長事業の発展

10年先を見据えた次世代製品の取組

> 主力製品競争力強化

競争環境激化



- 生産性の向上
- 全体最適
- 品質・付加価値 など

収益力強化

持続的成長に向けた製品戦略の加速

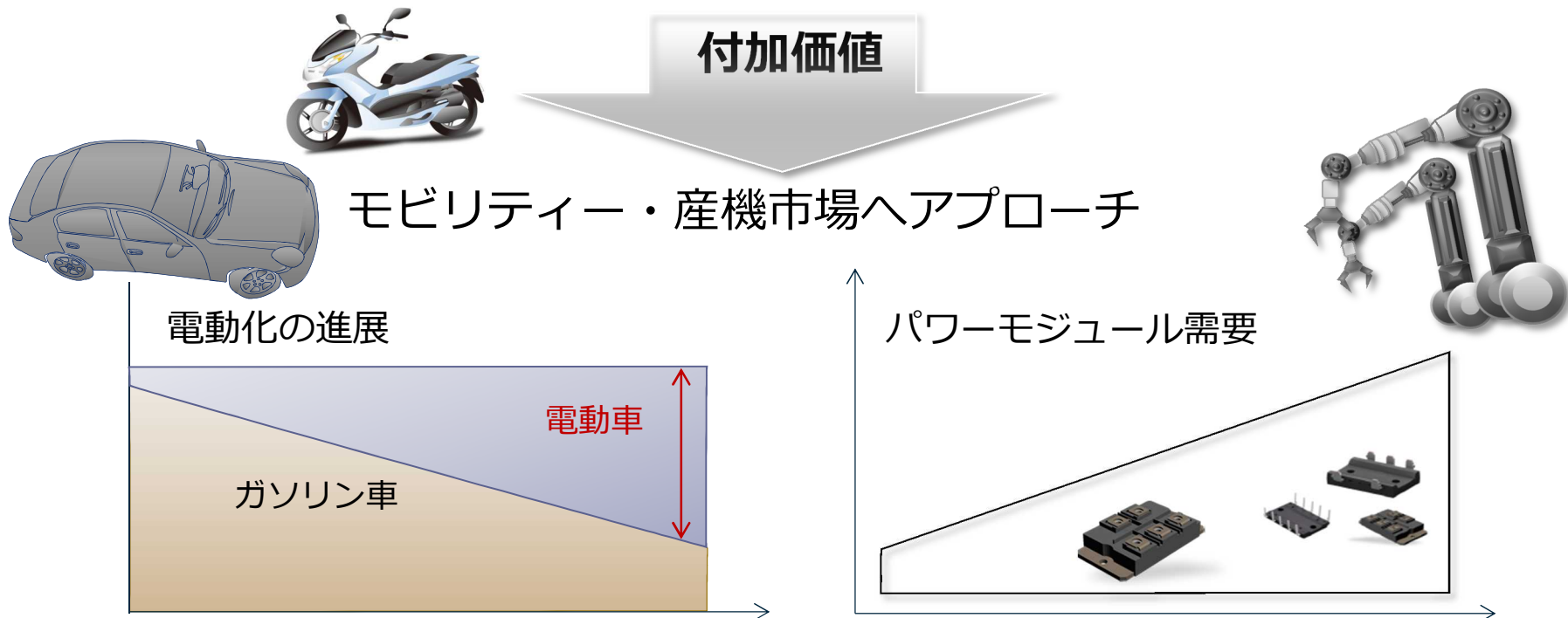
主力製品競争力強化

伸長事業の発展

10年先を見据えた次世代製品の取組

> 伸長事業の発展

外部リソースの有効活用も行い、パワーモジュールやEV関連製品を次期の柱へ



持続的成長に向けた製品戦略の加速

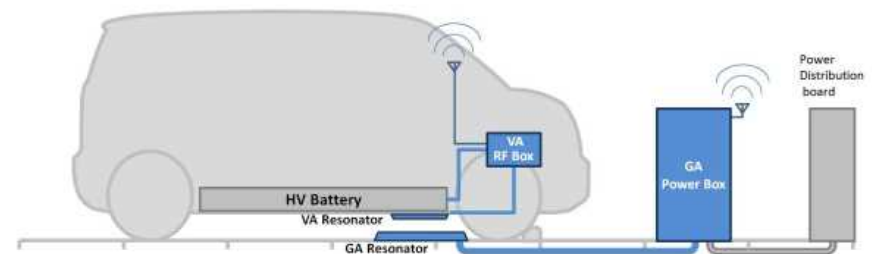
主力製品競争力強化

伸長事業の発展

10年先を見据えた次世代製品の取組

> 10年先を見据えた次世代製品の取り組み

既存事業の枠組みを超え、
アライアンスも視野に、
次世代製品にアプローチ



第15次中期経営計画 数値目標

	第15次中期経営計画 2022年3月期
売上高	1,150億円
営業利益率	7.6%
ROE	10.0%

	累計金額
設備投資計画	380億円
研究開発計画	185億円

2019年3月期決算説明

2019/5/17

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績		前期比
		期初予想		
売上高	922	967	947	+2.7%
営業利益	69	58	56	▲17.7%
経常利益	72	63	60	▲16.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	48	39	▲26.8%
営業利益率	7.4%	6.0%	6.0%	▲1.4pt.
ROE	9.4%	8.0%	6.5%	▲2.9pt.

◆モビリティ分野を中心に堅調に推移し、増収。

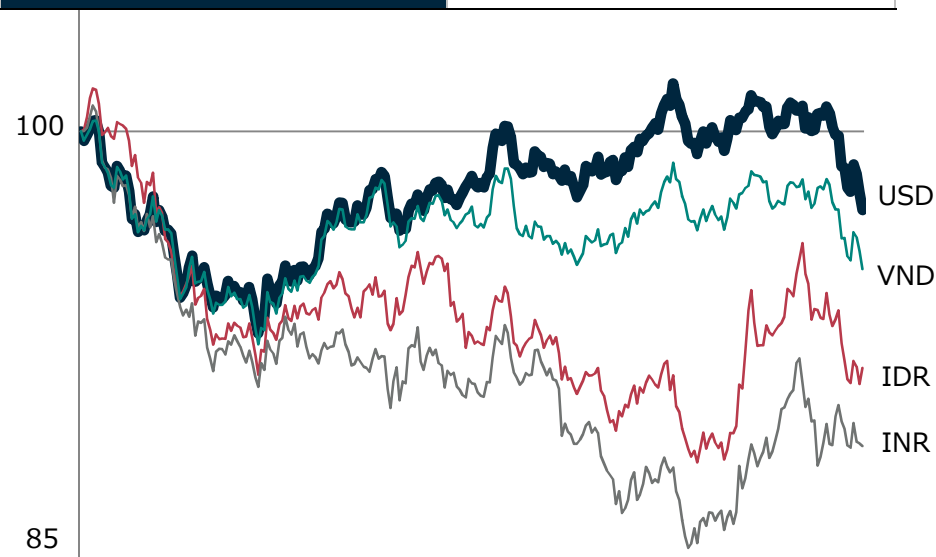
◆特殊要因があるなかで、アジア通貨安や減価償却費増などにより減益。

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	前期比
設備投資	61	70	+15.2%
減価償却費	45	50	+10.0%
研究開発費	55	56	+1.2%

単位：JPY/USD

	2019年3月期 実績
換算為替レート	110.58
平均為替レート	109.39

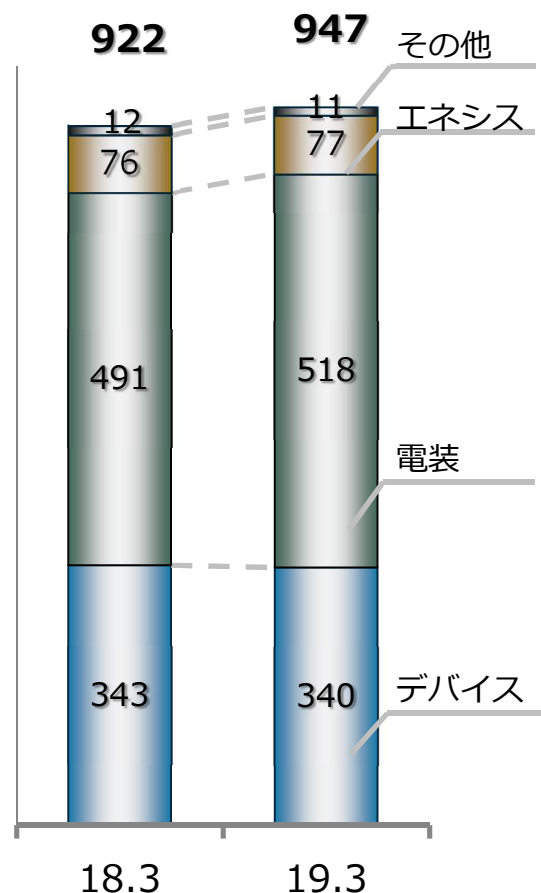


※2018年1月1日時点の為替レートを100として12か月間の推移を指数化

- ◆ USドルは概ね計画に近い推移だったが、アジア通貨が大きく変動。

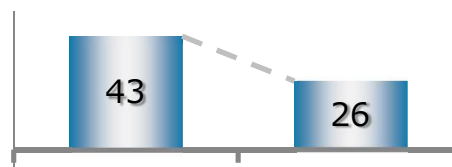
連結業績（セグメント別）

セグメント別売上高



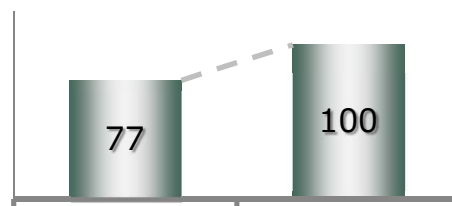
セグメント別営業利益

【デバイス】



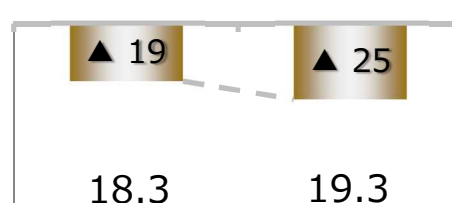
産業機器市場、期中に需要低迷。
費用増加や原材料高騰により減益。

【電装】



インドでは規制等の影響で下期に鈍化。
アセアン二輪市場は概ね堅調に推移し増収。
営業費用の戻入により大幅増益。

【エネルギーシステム】*



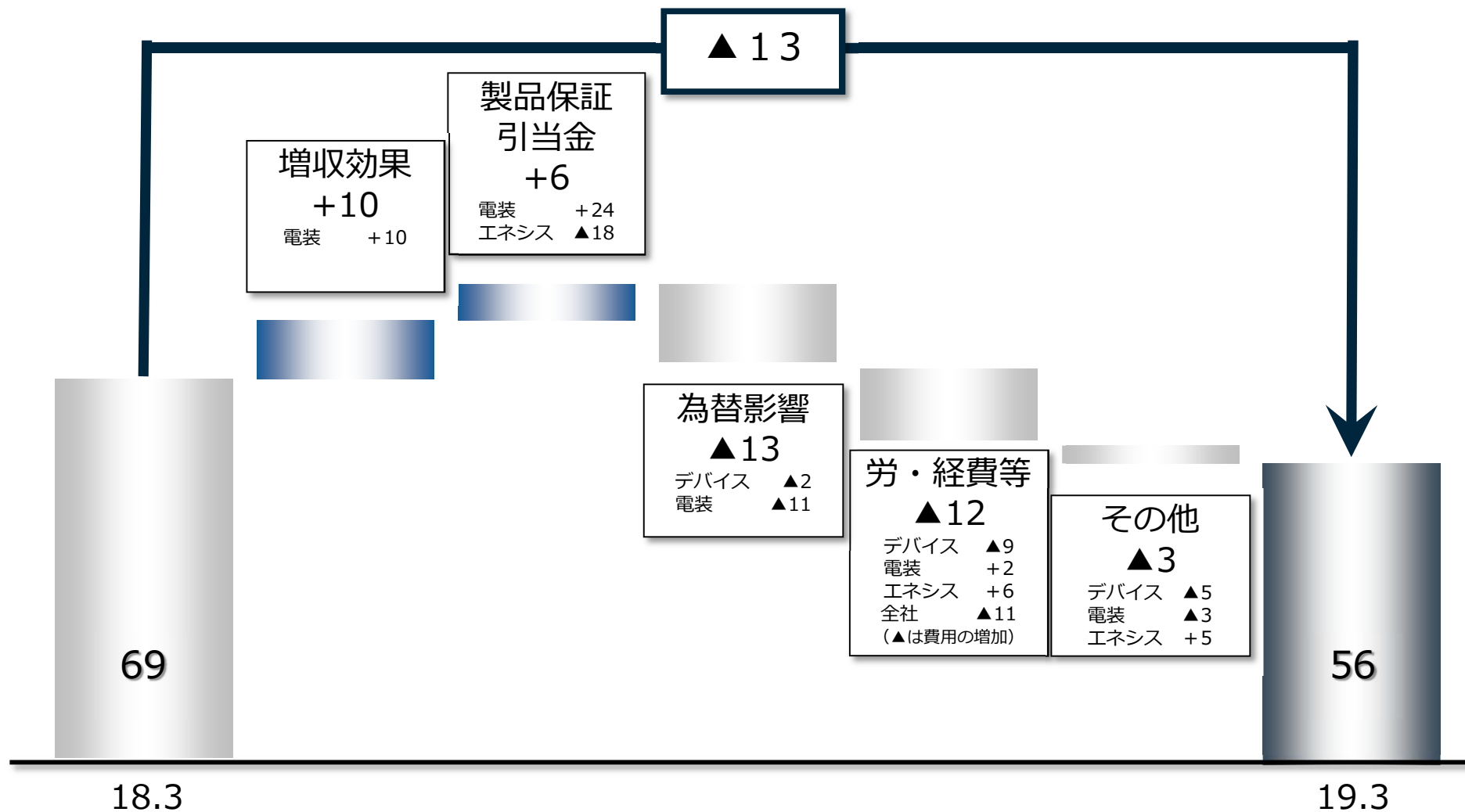
構造改革効果はあったものの、
一部製品の点検・保守作業等の実施による
営業費用計上により、損失拡大。

*「エネルギーシステム事業」は当期の損失額が一定の基準を超えたため、報告セグメントとして開示対象となりました。

単位：億円（億円未満四捨五入）

営業利益の増減（前期比）

単位：億円（億円未満四捨五入）



連結貸借対照表

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2018年3月期	2019年3月期	増減
流動資産	845	799	▲5.4%
固定資産	492	488	▲0.9%
資産 合計	1,337	1,287	▲3.8%
流動負債	313	301	▲3.8%
固定負債	432	391	▲9.6%
負債 計	745	692	▲7.2%
純資産	592	595	+0.5%
総資産 合計	1,337	1,287	▲3.8%
自己資本比率	44.3%	46.2%	+1.9pt.
有利子負債残高	306	278	▲9.4%

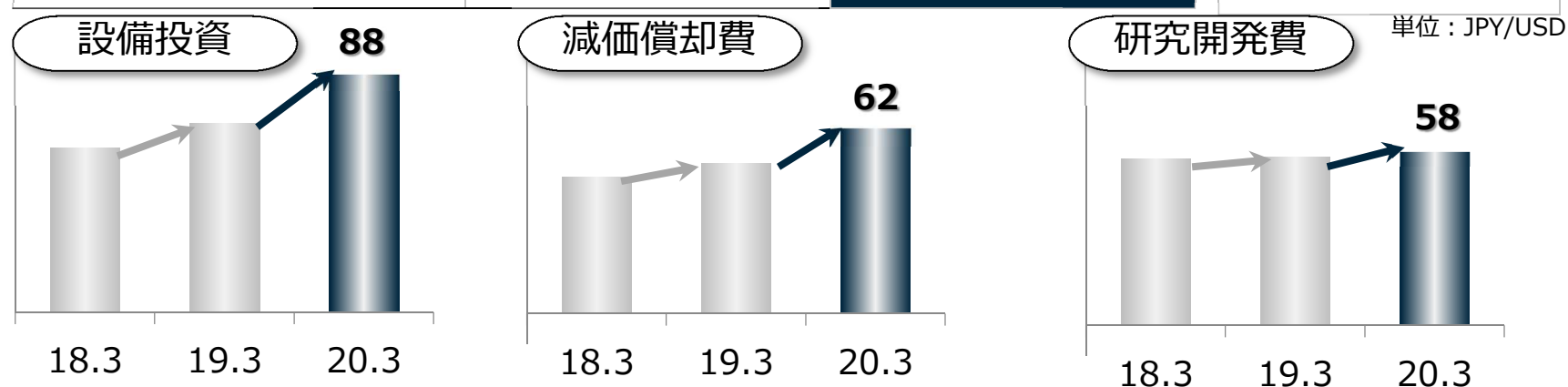
2020年3月期業績予想

2019/5/17

連結業績予想

単位：億円（億円未満四捨五入）

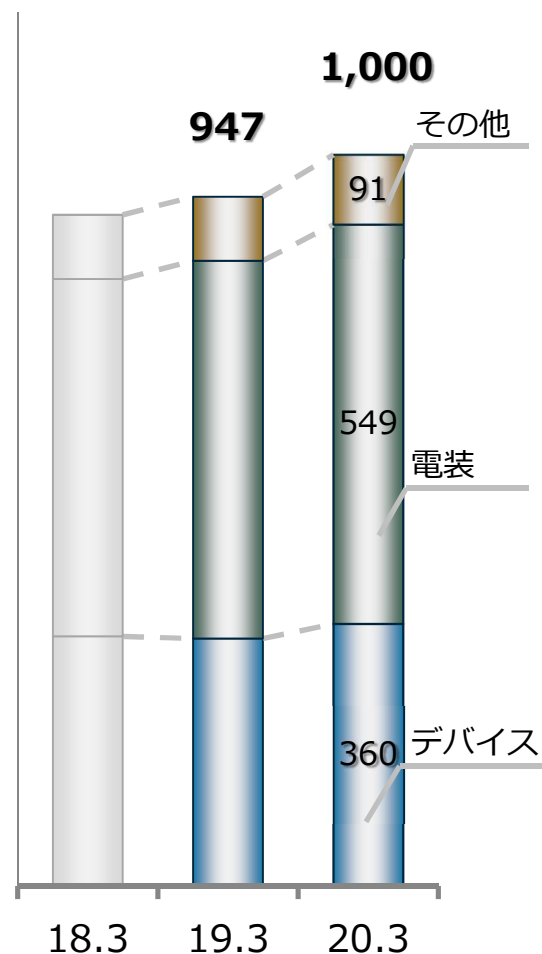
	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	前期比
売上高	947	1,000	+5.6%
営業利益	56	50	▲11.3%
経常利益	60	57	▲4.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	39	42	+8.3%
営業利益率	6.0%	5.0%	為替レート 110円
ROE	6.5%	6.8%	



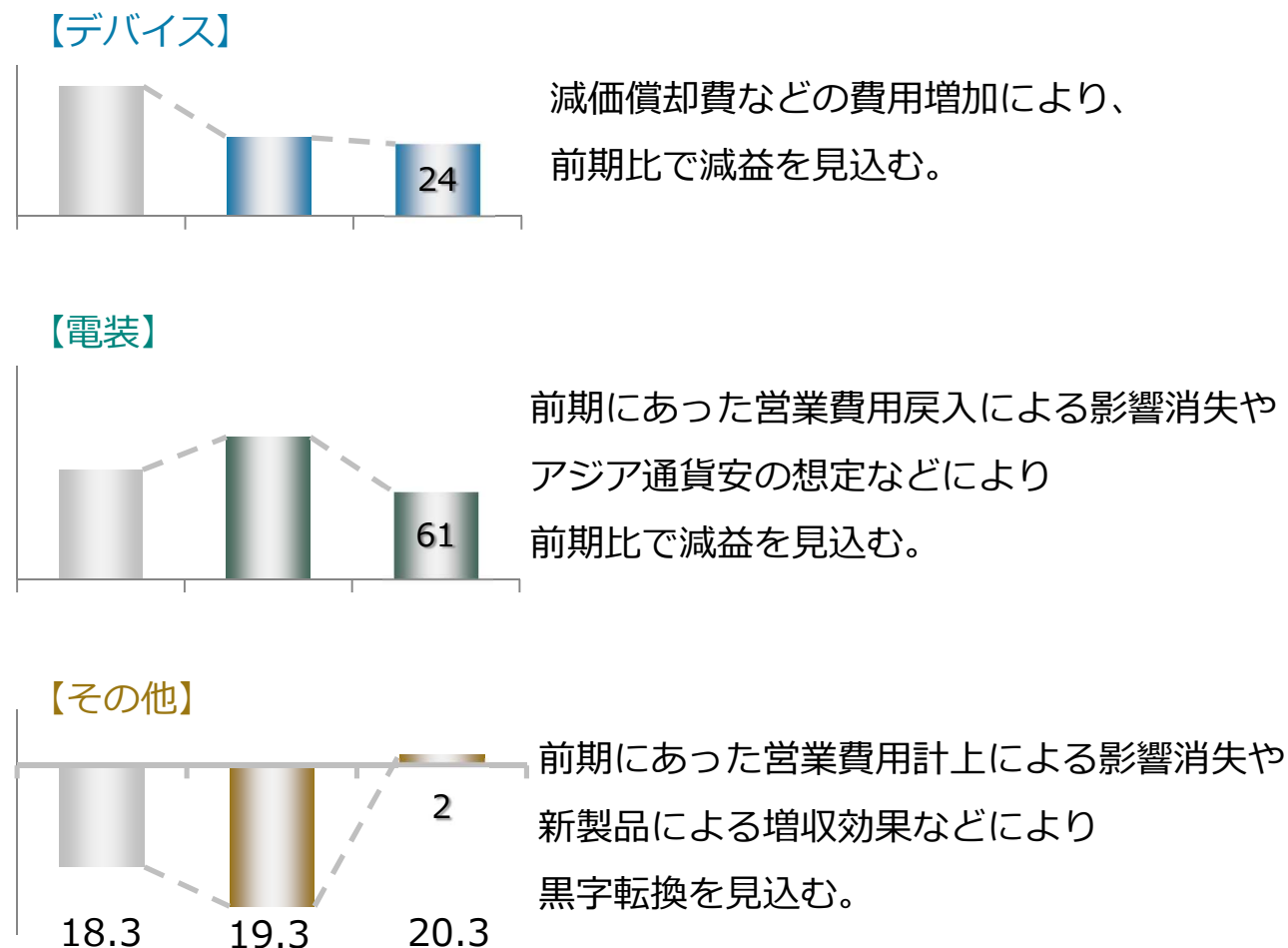
◆中長期的な成長に向けて、引き続き積極的な投資を進める。

連結業績予想（セグメント別）

セグメント別売上高



セグメント別営業利益

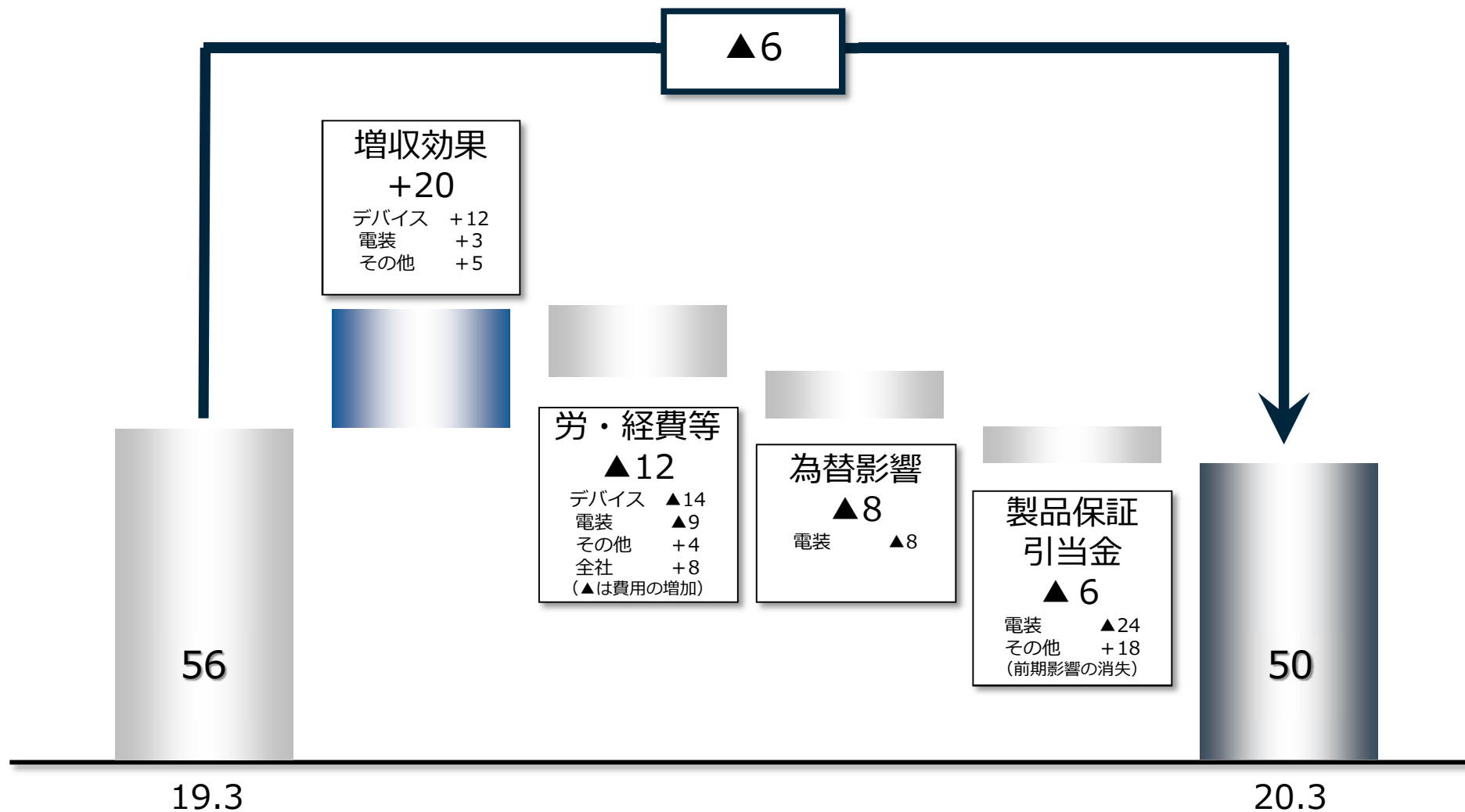


単位：億円（億円未満四捨五入）

※当期よりエネルギーシステム事業の一部製品を電装事業に移管しています。
19.3期の実績は、移管に伴う影響額が僅少のため、組替前の数値を記載しています。

営業利益の増減予想（前期比）

単位：億円（億円未満四捨五入）



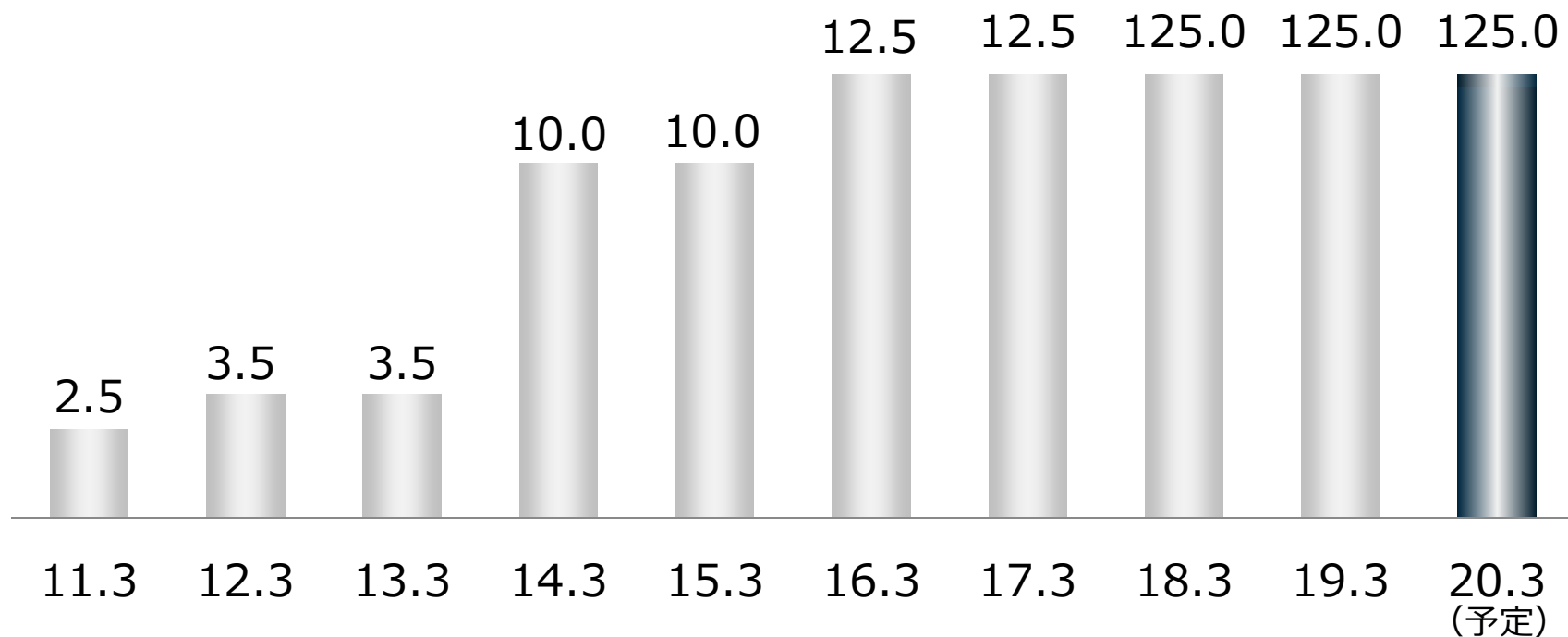
1株当たり配当金予想（年間）

2020年3月期

期末配当金として125円を予定

*当社は、2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。

単位：円



ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載した将来に関する見通しは、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、
多分に不確実な要素を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があります。